

MDM - Reference 360

利点

- 企業の参考データセットを作成、管理、標準化
- 参考データから真の価値を引き出す、カスタマイズ可能な使いやすいクラウドベースのソリューション
- 参考データ管理の運用負担を解消して、コストと時間を削減

業務担当者がセルフサービスで利用できるクラウドベースの参考データ管理

Informatica® MDM - Reference 360では、一般的な参考データを簡単な操作で最大活用しながら、顧客、製品、場所、トランザクションなど、幅広いデータをマスター化できます。セルフサービスモジュールによって業務担当者はIT部門の関与をほとんど、またはまったく必要とせずに、新しい参考データセットとルールをセルフサービスで定義できます。Reference 360は、Informatica Intelligent Data Platform™をベースとする完全なクラウド対応360ソリューションです。セットアップも簡単に実行でき、後は参考データのライフサイクル全体を管理できます。また業務担当者向けのセルフサービス機能も備えています。

参考データの管理を簡素化できるように構築されているReference 360は、社内の参考データを結合および標準化し、信頼できる情報の唯一無比のソースを確立します。このソリューションにより、クラウドの柔軟性と俊敏性を活用しながら従業員の生産性向上、正確な社内外向けレポートの作成、運用の効率化、顧客体験の改善を実現できます。このソリューションの特長は次のとおりです。

- 業務担当者にカスタマイズ可能な使いやすいユーザーインターフェイスを提供
- 業務担当者による参考データのセルフサービス管理
- 参考データの変更を管理するための、役割に基づいた承認とパブリッシュのワークフロー
- インポート、階層管理、バージョン管理、エクスポート機能を備えた完全なライフサイクル管理

主な機能

Reference 360は数多くの重要な機能を提供します。

クラウドベースの参考データ管理

Reference 360は業界初のSaaS参考データ管理ソリューションで、マイクロサービスアーキテクチャを基盤に構築されており、Informatica Intelligent Cloud Services (IICS) SMの数々の実証済み機能を提供します。また最高水準のセキュリティ、信頼性、拡張性、使いやすさを実現しているとともに、インフォマティカのクラウド製品とともに導入できるので、データ統合、データ品質、マスターデータ管理、データガバナンスなどの機能を追加サービスとして活用できます。

業務部門のセルフサービス

- 業務担当者向けのUI: 直感的なユーザー体験を実現するReference 360により、業務担当者は参考データを簡単かつ有意義に活用できます。
- セルフサービスの定義、管理、ガバナンス: Reference 360のコンフィグレーションは簡単です。パワーユーザーや業務担当者は、IT部門のサポートなしに、単一のUIで参考データモデルを定義し、モデル内のデータとその所有権を管理できます。

階層

- 複雑な階層のサポート: Reference 360では、複数レベルの階層を定義して、各レベルに任意の数とタイプの属性を割り当てることができます。
- 階層管理のユーザー体験: Reference 360は、参考データを値のリストや階層データのツリー構造として管理するために最適なユーザー体験を提供します。

参考データの関係

- 参考データの依存関係: データを簡単に管理しながら、依存関係の検証を簡単に定義および実行できます。
- 複合参考データ: Reference 360では、他の複数の参考データで構成される参考データを定義して複合参考データを作成できるので、参考データを複数の場所で繰り返し作成する必要がなくなります。
- クロスウォーク: Reference 360では、標準化した参考データセットだけでなく、変換マッピング、さらには同一データセットのアプリケーションごとのバージョンとのクロスウォーク関係も簡単に管理できます。
- 360度ビューのグラフ: Reference 360では、任意の参考データ値（および階層の親/子、クロスウォークの方向性マッピング、依存関係、複合参考など）の360度ビューを作成して表示できます。これにより、参考データの全体像を把握できます。

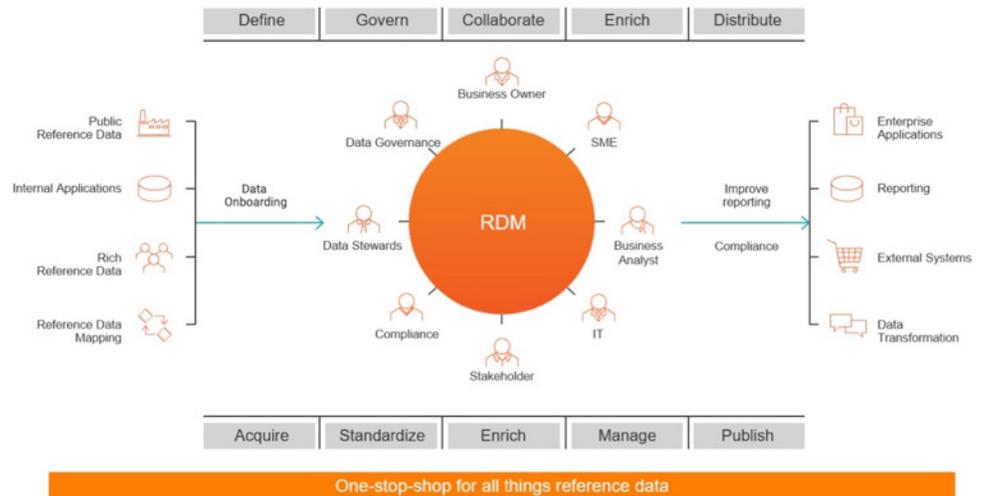


図1: 次世代の参考データ管理を実現。

クロスワークマッピング

- 複数のクロスワーク: Reference 360では、同一の参考データカテゴリーのコードリストの間で複数かつ双方向のクロスワークマッピングを作成、インポート、エクスポートできます。
- 簡単なマッピング: サイドバイサイドのマッピングで階層の視覚化と一括マッピングが可能のため、値を簡単にマッピングできます。
- クロスワークマッピングのガバナンス: Reference 360では、クロスワークマッピングが参考データのタイプの1つとして扱われるため、クロスワークマッピング資産の処理、セキュリティ保護、所有権、ワークフロー（参考データの追加など）が実現します。

主なメリット

ガバナンス

- 責任マトリクス: Reference 360では、クロスワークマッピングを含むすべての参考データ資産を1人または複数の個人（またはグループ）に割り当てて、1つまたは複数の責任（スチュワードシップなど）を指定できます。
- セキュリティとワークフローを動的に適用: 設定済みのセキュリティ基準と役割に基づいて、すべての責任マトリクスが動的かつ即座に指定されるので、セキュリティやワークフローとの整合性を強化できます。
- 参考データレベルのセキュリティとワークフロー: Reference 360では、セキュリティとワークフローがアプリケーションレベルではなくデータレベルで適用されます。これにより優れた柔軟性が実現し、同じユーザーまたはグループに対して、参考データのカテゴリーごとに異なる役割を割り当てることができます。

目的特化型UI

- 参考データのカタログ化: 参考データは、カタログ化してグループおよびカテゴリー別に表示する方法が効果的です。そのためには、参考データをリスト形式でキューレーションする必要があります。Reference 360のUIでは、参考データセットが階層型のエクスプローラビューで表示され、さまざまな属性（ドメイン、ステータス、オーナーなど）別にグループ化できます。
- リストビューと一括アップデート: 業務担当者は参考データをリスト/表形式で管理することを好みます。また、リスト内にある複数のレコードを同時に選択およびアップデートしたいと考えています。Reference 360のUIは、リストビュー、ツリービュー、複数選択、ドラッグアンドドロップの階層ビュー、検索とフィルター、複数のセッションで複数の変更を行うためのドラフト作成ビュー、さらには一括アップデート機能を備えているため、参考データのリストを簡単に管理できます。
- ファイルのインポート/エクスポート: Reference 360のUIでは、他のツールを使用することなく、スプレッドシートのデータをエクスポートして、コードリストとクロスワークにインポートできます。インポートしたデータを手動でアップデートしてエンリッチ化することも可能です。

インフォマティカについて

デジタルトランスフォーメーションによって我々の期待値が変化しています。より良いサービスを、素早く、便利に、低コストで利用したいという期待が高まっているのです。企業も状況に応じて変化する必要があります。そしてそのヒントは「データ」にあります。

エンタープライズ向けクラウドデータ管理で世界をリードするインフォマティカは、俊敏性の向上、新たな成長機会の獲得、新しいソリューションの開発を実現するための洞察を通じて、あらゆる産業や分野の企業がインテリジェントにビジネスをリードできるよう支援します。インフォマティカは、あらゆるデータを徹底的に重視し、企業の成功に必要なとされる汎用性を提供します。

インフォマティカは、企業がこれからのインテリジェントな破壊的イノベーションを推進できるよう、当社が提供するあらゆるサービスを通じてデータの力を継続的に引き出すことを支援します。

エンタープライズの統合

- Reference 360はInformatica Intelligent Cloud Servicesを利用するので、さまざまなエンタープライズアプリケーション、クラウドアプリケーション、分散している参考データを簡単に統合することができます。
- またReference 360はREST APIをサポートしているので、異種テクノロジープラットフォームからの参考データも簡単に利用できます。
- さらに、インフォマティカのデータ統合コンポーネントやデータ品質コンポーネントとも連携しているので、最適な参考データを最適なタイミングで提供できます。

短期間で高い価値を発揮

サブスクリプションモデルで利用できるReference 360は他のソリューションに比べて総所有コストも低く、短期間で高い価値を発揮します。ハードウェア/ソフトウェアの購入/セットアップを心配することなく、参考データ管理システムをプロビジョニングできます。Reference 360は、参考データの管理に対する各社固有の要件に対応しながら、インストールとコンフィグレーションも簡単ですぐに使い始めることができる、ターンキーオプションを提供します。



〒105-6226

東京都港区愛宕2-5-1 愛宕グリーンヒルズMORIタワー26階 電話：03-6403-7600（代表）FAX：03-3433-1021

IN06_0819_03639

© Copyright Informatica LLC 2019. Informatica, Informaticaロゴ, Intelligent Data Platform, およびInformatica Intelligent Cloud Servicesは、米国およびその他の国におけるInformatica LLCの商標または登録商標です。インフォマティカの商標の最新版は、<https://www.informatica.com/jp/trademarks.html>をご覧ください。その他すべての企業名および製品名は、各社が所有する商号または商標です。本文書に記載されている情報は、予告なく変更されることがあり、現状のまま提供され、明示または黙示を問わず一切の保証を伴いません。